

## 両親を愛し敬って、あなたの人生を神聖なものとしなさい

2003年5月6日のイーシュワランマデーの御講話  
(ブリンダーヴァン サイ ラメーシュホールにて)

母の子宮から生まれ出るとき 人は金銭を一文たりとも持ちはしない  
人がこの世を去るときもまた 金銭が彼のあとを追うことはない  
百万長者であれ 飢えを満たすために黄金を飲みこむことはできず 塩と米を食さねばならない  
自らの富を誇っていても 人はこの世を去るとき 一銭たりとも持っていくことがかなわない  
蜜蜂が集めた蜜を人間が楽しむごとく 人が蓄えた富は やがては盗人か王の所有物となるのだ  
(テルグ語の詩)

母の子宮から生まれ出るとき 人はその首もとに花輪をつけてはいない  
真珠の宝飾品も 光り輝く黄金の装身具も持ちはしない  
エメラルドやダイヤモンドのごとき高価な宝石が散りばめられたネックレスも  
花輪も 身につけてはいないのだ  
しかし 人はその首もとに ある一つの輪をつけている  
ブラフマー神が 人の過去生での行為の結果をつないで重たい輪となし  
また生まれ出るその人の首にかけるのだ  
(テルグ語の詩)

### 愛の化身である皆さん！

人には皆、母親がいます。母を喜ばせることなく、その愛を受け取ることもない人は、真の息子ではありません。現代においては、適切な愛情と世話をもって子どもを育てる母親は極めて少なくなりました。＜身体は寺院であり、その身体に住み給うものは神である＞と言われます。どの寺院にも、鐘があります。しかし、人間の身体という寺院の中に存在する鐘は、外から見る事ができません。この鐘はアナハティとして知られています。それは、人が鳴らすことのできる鐘ではありません。しかし、その鐘は、生命が人の身体に宿っている限り、明けても暮れても自ら鳴り続けています。アナハティとは、人間の心臓に他なりません。この鐘が鳴ることを止めるとき、身体は生命を失います。そのとき、私たちはその身体をサヴァム（死体）と呼ぶのです。この鐘が鳴っているとき、身体はシヴァム（吉祥）であると考えられています。宇宙のすべてが神の寺院です。この宇宙という寺院の中で、人は絶えず＜オーム＞という鐘の響きを聞くことができます。それがゆえに、神は、音、動くものと動かざるもの、光、言葉、永遠の至福、超越者、幻（マーヤー）、富の化身として表現されるのです。今日、私たちは、この神聖なオームの響きに

2003年5月6日

イーシュワランマ デーの御講話

自らを調和させることをせず、世俗的な会話や虚しい噂話に耳を傾けています。私たちは、アカンダ サッチダーナンダ スワルーパ（絶対存在、純粹意識、至福の化身なる神）の神聖な声を聞くことができなくなっているのです。

昔、カーシーにあるヴィシュヴェーシュヴァラ（註：シヴァ神の別名、すべてのものの主の意）の寺院で、ある僧侶が神にアルティー（註：樟脳しょうのうに火を灯して回す献火の儀式）を捧げていました。すると、突然、大きな黄金の皿が上方から落ちてきました。僧侶は驚き、喜んでそれを拾い上げるとじつくりと眺めまわしました。皿には、次のような文章が刻みつけられていました。「この皿は、最も偉大な帰依者に与えられるべきである。神の御名を唱えぬ者には、この皿を受け取る資格がない」。それを讀んだ僧侶は、こう思いました。（私は、毎日サハスラ リンガルチャナとアビシェーカムの儀式を神に捧げている。四つのヴェーダからのマントラを唱えて、自分の時間を神聖なものとしている。私よりも偉大な帰依者が存在し得るだろうか？）

そのようなエゴと高慢が彼の心を曇らしたとき、彼が持っていた黄金の皿は土の皿に変わってしまいました。恥入った彼がすぐに皿を置いて手を離すと、土の皿は再び黄金に変わったのです。その日以来、黄金の皿を得るに値する人物を見出すために、寺院を訪れる人はすべて、その皿に触れることを請われるようになりました。しかし、誰が触っても、その皿は土に変わってしまうのでした。そのような日がしばらく続きました。

あるところに、常に神の御名を唱えてはいても、それ以外には、ジャパ（註：マントラなどを繰り返し唱えること）や苦行、瞑想などの修行をいっさい行わない帰依者がいました。彼には何の欲望もありませんでした。彼はダーマ（註：感覚のコントロール）の境地に達していたのです。ある日、彼が寺院を訪ねました。皿に触れるようと僧侶から請われたその帰依者は、こう言いました。「僧侶さま、私には何の欲望もありません。ですから、この皿に触りたいとは思わないのです」。僧侶は、せめて自分を満足させてくれるためだけにでも皿に触れてみてほしい、と帰依者に頼みました。帰依者は、僧侶を失望させたくなかったので、その皿に触りました。

彼が皿に触れるや否や、それはさらなる光を増して輝き始めました。その状況を目撃していた人々は、彼のまわりを取り囲み、尋ねました。「おお、高貴なるお方よ！ あなたはどのような方法で礼拝をなさるのですか？ どのような靈性修行をしてこられたのですか？」すると、帰依者は答えました。「私は、ジャパも苦行も祭儀も供儀も、何もしてはおりません。ただ、貧しい人々に奉仕しているのです。神にとって、彼らはきわめて愛しい存在なのです」

苦行によっても巡礼によっても 聖典の学びやジャパによっても

人は人生という海を渡ることはできない

人は 信心深い人々に奉仕することによってのみ

人生の海を渡ることができるのだ

（サンスクリットの詩句）

それからというもの、大勢の金持ちたちがこの帰依者に会うためにカーシーを訪れ始めました。当然のなりゆきとして、金持ちがいるところには、彼らから施し物を得るために貧者もまた集つ

2003年5月6日

イーシュワランマ デーの御講話

てきます。先の帰依者は、その人々の哀れな状況を目の当たりにして心を動かされ、次のような決意を固めました。「神は貧者をたいそう愛される。それゆえ、これほど多くの貧者を寺院へとお引き寄せになったのだ。神は、この人々が手厚く世話をされるときのみお喜びになるだろう。それこそが、私がやりたいことなのだ。これらの貧しき人々の苦痛を和らげ、彼らを幸せにしてあげられたときのみ、私は幸福になるだろう」と。それ以来、彼は、さらに大きな献身と熱意をもって貧者や困窮する人々への奉仕を続けました。その行為は、寺院に集った金持ちたちに大きな驚きを与えました。

百万長者でさえもが、塩と米を食さねばなりません。飢えを満たすために、黄金を飲みこむわけにはいかないのです。人は自らの富を誇りに感じるかもしれませんが、この世を去るときに、一銭たりとも持っていくことはできません。そうであるならば、なぜ人は富を蓄えようと苦闘する必要があるのでしょうか？ その代わりに、神の恩寵を得ようと格闘するほうがよいのです。あなたが、一途な帰依心で常に神を憶念し続ければ、神はあなたが必要なことすべての面倒を見るでしょう。これが、寺院に集まったすべての人々に対して、帰依者が教えたことでした。

私たちが蓄える金銭は私たちについてはこないのです。最終的に、金銭は誰のところに行くのでしょうか？ 誰にもわかりません。たった一文すら、持っていくことは不可能です。皆さんは、神の恩寵を得るにふさわしくなるために、正しい行いをして、功德を積まねばなりません。母親の子宮から生まれ出たとき、皆さんは首もとに何の花輪もかけてはいません。しかし、確かに、一つの輪をかけています。ブラフマー神が、あなたがたの過去生での行為を、良かれ悪しかれすべてつなぎ合わせ、重たい首輪としてあなたがたの首にかけるのです。そのカルマ（行為の結果）の首輪なしにこの世に生まれ出る者は一人としてありません。しかし、人はこの真実を忘れ、常に快樂と喜びを追い求めます。世俗的な喜びがどれほど長く続き得るのでしょうか？

富や所産や若さを誇ってはならない

時の流れは それらをあっという間に破壊するのだ

若者たちは、自らの若さや富を誇りに感じます。しかし、それらは一時的なものなのです。この真理を悟り、私たちは、神の恩寵という富を蓄えなければなりません。先の帰依者は、そのような神聖な教えをまわりに集った人々に教え、そののちに寺院を去ろうとしました。彼が外に出ると、黄金の皿もまた、そのあとをついてきました。皿と共に、すべてのコインもまた、転がりながら彼のあとを追いました。すると、乞食たちも、金の施しを求めて彼のあとに続きました。帰依者はこのように言いました。「愛しい皆さん、私に求めることに何の意味があるのでしょうか。神がすべての守護者なのです。神が、すべての中の最も富める者です。それゆえ、神に祈ってください」。

彼が移動するにつれ、たくさんのコインが黄金の皿からこぼれ落ちました。乞食たちはそのコインを集めました。帰依者は至福の境地に達し、目を閉じました。彼は、ヴィシュヴェーシュヴァラ神の御姿を見ました。彼は祈りました。「おお、ヴィシュヴェーシュヴァラ神よ、あなたは宇宙全体の主であります。この貧しい人々の面倒を見てくださいますでしょうか？ どうか、あな

2003年5月6日

イーシュワランマ デーの御講話

たの恩寵を彼らにお注ぎください」。

無私の愛をもって、すべての人々の安寧を祈ることが最も高貴な祈りです。この帰依者には、エゴの証跡さえありませんでした。彼は、無私の愛によって他者のために祈りました。それゆえ、神はこの帰依者に満足したのです。皆さんは、常に無私の態度で祈るべきです。そのような祈りのみが、神のハートを溶かすのです。世俗的な目的で神に祈ることには、何の意味もありません。愛の化身である神は、私たちのフリダヤ（心）の中に住んでいます。フリダヤはアナハティ（心臓）として知られています。アナハティは、常に鳴り響く鐘です。私たちの心に住む神が、その鐘を鳴らし続けているのです。私たちは、その鐘の音に耳を澄まさなければなりません。

私たちの聖典は、帰依の九つの道を教えています。すなわち、スラヴァナム（聴くこと）、キルタナム（歌うこと）、ヴィシュヌスマラナム（ヴィシュヌ神を憶念すること）、パダセーヴァナム（神の蓮華の御足に仕えること）、ヴァンダナム（礼拝すること）、アルチャナム（崇拝すること）、ダーシャム（神の召使となること）、スネーハム（友情をもつこと）、アートマニヴェーダナム（真我に全託すること）。

真我への全託は、あなたが神に手向けねばならない真の捧げ物です。神は、あなたが捧げる世俗的な物には関心がありません。あなたが神に捧げなければならないのは、神があなたに与えた、その心です。

おお神様 私は あなたが私にお与えくださったこの心を捧げます  
あなたの蓮華の御足に それ以外の何を捧げることができましょう？  
私の礼拝をどうぞお受けください

(テルグ語の詩)

神は、あなたが稼いだ、もしくは蓄えた富には関心を持ちません。神には、窮乏も富もありません。神はヴィシュヌ神の真なる本質なのです。富の女神ラクシュミー自身がヴィシュヌ神の胸の上に住むというのに、あなたは神に何を捧げることができるのでしょうか？

パクシー ヴァーハナ（乗り物としてガルダを従えるヴィシュヌ神）は  
その胸に女神ラクシュミーを住ませている  
その神が どうして他者に施し物を乞うというのか？

それゆえ、あなたは神に何も捧げる必要はありません。神があなたに与えた神聖な心が、「彼」へと返されるべきなのです。カリの時代（註：正法がすたれ悪徳がはびこる時代）の影響により、人々は、神に与えられた心を神に捧げる、という思いを持ちません。彼らは、蓄えた富を神に捧げているのです。なぜ、そのように低級で卑しい捧げ物ができるのでしょうか？ あなたは、自らの心を神に捧げなければなりません。それは、アナハタ ダルマと呼ばれます。これこそが、私たちが常に護らなければならない宝物です。

## 愛の化身である皆さん！

カリの時代の影響を受け、帰依も無執着も表面的なものとなっています。人々は、他者を喜ばせようとはしますが、神を喜ばせようとはしません。あなたがたは、神を喜ばせる行為をしなればなりません。あなたが、自分自身の好みによって行為するとき、どうして神があなたによって喜ばされましようか？ 神が最も好まれるのは、アナハタ プレーマ（註：心からの愛）です。あなたのフリダヤ（心）は、愛、犠牲の精神、至福で溢れているべきです。あなたは、いくらでも物を捧げることができるかもしれませんが、あなたの心を神に捧げるのでなければ、神はそれらの物を受け取りはしないでしょう。受け取るふりをするかもしれませんが、神はそれらを投げ捨ててしまうでしょう。

あなたは、神を喜ばすものを捧げなければなりません。それこそがアナハティと呼ばれるフリダヤ（心）なのです。心は、愛と至福の中心です。実際、心はすべての基盤です。あなたが、そのような神聖な心を神に捧げるのでなければ、その他の捧げ物は何の役に立つのでしょうか？ 神は、表面的な捧げ物には関心を示しません。貧しい人々に出会ったならば、彼らが求めるものを与えなさい。彼らが寒さの中で震えていたなら、彼らに毛布を差し出さなさい。彼らには、あなたが与えたいと思う物ではなく、彼らが必要な物を与えるべきです。

私が学校に通っていたころ、夕方、私たち兄弟がブッカパトナムの学校から帰宅すると、母のイーシュワランマは、その日学校で何があったかを愛情深く尋ねたものでした。彼女は、正式な教育はまったく受けていませんでした。ある日、子どもたちは彼女にこう言いました。「おかあさん、今日、コンダッパという先生が、サティアを椅子の上に立たせたんだよ」。兄弟たちは、その教師を批判し始めました。イーシュワランマは、彼らをさえぎって、こう語りました。「子どもたちよ、自分の先生の悪口を言うものではありません。ちゃんとした理由もなしに自分の生徒を罰する教師などいませんよ。私たちのサティアが、なにか間違えを犯したのかもしれませんが」。

そして、彼女は私に尋ねました。「サティア、どんな間違えをしたの？」私は、起こったとおりの事実を彼女に告げました。教師コンダッパは、生徒にこう命じたのです。「ノートを書き終えた者は、机の上に置きなさい。書いていない者は、椅子の上に立ちなさい」。私は、ノートをとっていませんでした。それは私の過ちです。それゆえ、私は椅子の上に立ちました。そして、また、必要である以上のことを次のように言いました。「先生、ノートをとっていた生徒たちは皆、先生の質問に答えられるのでしょうか？ 僕はノートをとってはいませんが、先生がお尋ねになるどのような質問にも答えることができます」。コンダッパは、私のことをエゴイストであると感じ、私に、三時限にわたって授業の間立っているようにと命じました。私は彼の言うことに従い、椅子の上に立ちました。

そうこうするうちに、もう一人の教師、マフブーブ カーンが教室にやって来ました。彼はイスラム教徒で高貴な人物でした。彼は、私が椅子に立っているのを見て胸を痛め、こう尋ねました。「コンダッパ先生、なぜこの少年を椅子の上に立たせているのですか？」「彼は、ノートをとっていなかったのです。ですから、その罰です」と、コンダッパが答えました。マフブーブ カーンは、このように言って私をかばいました。「ノートをとっていないことが何なのでしょう？ 彼は、あ

2003年5月6日

イーシュワランマ デーの御講話

あなたの質問にすべて答えることができます。それで充分ですよ。彼に座るようにおっしゃってください」。しかし、コンダッパは、「私の命令に従わなかったのですから、彼は罰されるべきです」と言い張りました。

ベルが鳴り、コンダッパは別のクラスに行かねばなりませんでしたが、彼は椅子から立ち上がることができませんでした。最初、彼は、自分のドーティー（下衣）が椅子の釘に絡みついたのかと思いました。しかし、そうではありませんでした。彼は椅子にくっついてしまったのです！ 彼が椅子から立ち上がろうとすると、椅子もまた、彼にくっついてくるのでした。マフブーブ カーンはこう言いました。「コンダッパ、彼は普通の少年ではないのです。彼は偉大なる神聖な力の持ち主の一人です。あなたは、適切な理由なしに彼を罰しました。せめて今からでも、彼に座るようにおっしゃってください」。コンダッパは、自分の過ちに気づき、私に座るように言いました。するとただちに、彼は椅子から立ち上がることができたのです。

このすべてが母イーシュワランマに告げられたとき、彼女はこう言いました。「愛しいサティア、あなたは自分の先生を罰するべきではありません」。私はこう答えました。「私は彼を罰しはしませんでした。実際、彼が彼自身を罰したのです」。彼女は、子どもたちに、このように神聖な教えを伝えました。「私の愛しい子どもたち、あなたがたは、学ぶために学校に行っているのです。何を学ぼうとも、それを適切に役立てなさい。そのときに初めて、真に教育された者と呼ばれ、サークシャラ（註：真我に目覚めた者）という称号を得ることができるよう。学んだことを適切に役立てないとすれば、あなたがたは、ラークシャサ（悪魔）となってしまいます。サークシャラという称号を得られるように努力しなさい」。

そして、彼女は私にこう言いました。「サティア！ どんな時でも、どんな状況にあっても、誰にも憎しみの感情をもってはいけません。すべての人を愛しなさい。そうすれば、あなたはすべての人から愛されるでしょう」。実際、私にはいかなるときにも憎しみや恨みの証跡はまったくありません。私はすべての人を愛しています。それゆえ、すべての人が私を愛しているのです。もしも私たちが他者を愛さなければ、どうして他者が自分を愛することを期待できるのでしょうか？ 愛を与え、愛を受け取りなさい。愛は一方通行のものではありません。あなたは与え、受け取るべきです。このやり方で、母イーシュワランマは、子どもたちに多くの神聖な理想を教えました。

人は、そのように神聖な教えを授けるためにいかなる正式な教育をも受ける必要がありません。高い教育を受ける人々はたくさんいますが、その用途は何でしょう？ 彼らは、その知識を適切に用いようとはしません。多くの神聖な教えを受けたならば、少なくともその一つは実践すべきです。皆さんは、帰依心をもって礼拝をし、バジャンを歌います。皆さんが、そのバジャンの歌詞の少なくとも一つの言葉を実践し体験すれば、それで充分です。たとえば、あなたは、神をプレーマ スワルーパ（愛の化身）と賞賛します。それと同様に、あなたは、愛を育みそれを他者と分かち合うべきなのです。そのときのみ、皆さんは神性を理解し体験できるでしょう。

母イーシュワランマは、私の帰依者が彼女のまわりに集うとき、彼らに多くの神聖な教えを与えたものでした。私は、プラシャーンティ ニラヤムで彼女に小さな部屋を与えました。たくさんの女性がそこを訪れ、彼女にこう嘆願したものでした。「母上さま、私たちはここに長い間滞在しています。どうか、私たちにインタビューを与えてくださるようスワミにお頼みください」。彼女

2003年5月6日

イーシュワランマ デーの御講話

はこう答えたものです。「愛しい皆さん、スワミは私たちの目には<sup>きやうしや</sup>華奢に見えるかもしれませんが、誰の言うことにも従われません。人の勧めに従って行為されることはありません。彼は、皆さんが受けるに値するものをお与えになります。皆さんは、スワミの神聖な原理を理解するように努めるべきです」。このようにして、彼女は帰依者たちに適切な導きを与えたものです。

ある日、彼女は私にこう言いました。「サティア！ あなたの名前と名声は、広く遠くまで広まりました。世界中の人々が、あなたのもとにやって来ます。どうか、あなたのサンカルパ（意志）によって、世界に平和をもたらしてください」。私は、彼女にこう言いました。「世界の平和を私が意志しなければならない、というものではありません。それぞれの人が自分たちで平和を達成しなければなりません。なぜなら、人は本性として平和の化身だからです。人は真理の化身です。人は愛の化身です」と。皆さんは、自らの愛を体現しなければなりません。内なる平和を体験しなければなりません。真理の道に従わなければなりません。サティアム ヴァーダ、ダルマム チャラ（真実を語り、正義を実践しなさい）。この原理に従うとき、皆さんは何であれ達成することができるのです。

<sup>いにしえ</sup>古より、子どもたちを正しい道に沿って導いた多くの高貴な母親がいました。国家の将来は、母親たちの手の中にあります。それゆえに、人は自分の国を母国と呼ぶのです。バーラタ（註：インドの古称）は多くの高貴な母親たちを生み出しました。私たちの古の文化は、母親に第一の場所を与えました。父親はその次に位置するのみです。招待状でさえ、私たちは、夫婦の宛名の敬称を Smt. and Sri.（註：シュリマティ&シュリ、英語のミセスとミスターに相当）のように女性、男性の順で記します。夫は高い教育を受け、権威ある地位を得ているかもしれません。彼は、国の大統領であるかもしれません。しかし、私たちは、招待状を送る際に、Sri. and Smt. と書くことはできません。Smt. が先に来なければなりません。古来、バーラタにおいては、婦人は大いなる崇敬と敬意をもって処遇されてきました。このバーラタの国は極めて神聖です。しかし、不幸なことに、人々は母国への愛を失ってしまいました。

自らの母を愛し、その母の愛を受け取る者は、真の人間です。母の愛を得ることができない者はまさに悪魔です。それゆえ、あなたの母を尊重し、崇敬しなさい。母の愛を体験し、味わいなさい。あなたの生活を、母の幸福のために捧げなさい。皆さんは、いくらでも学位を取ったり、神聖な行為をすることができるかもしれません。しかし、もしあなたが母を喜ばせないのなら、それらすべては虚しいものとなるでしょう。この世に、母に勝るものはいっさいありません。ヴェーダは、<母を神として、父を神として、師を神として、客人を神として崇めよ>と宣言する際に、母親に最も重要な位置を授けています。この世に、母を愛さない息子はいるかもしれませんが、息子を愛さない母は存在し得ないのです。母と子の間で意見の相違は起こるかもしれませんが、母の愛は決して衰えることはありません。

### 愛の化身である皆さん！

母を愛することは、あなたの最も大切な義務です。朝起きてすぐにあなたがすべきことは、あなたの母の足に触れて礼拝を捧げることなのです。そのような尊い習慣は、あなたを常に守り、

あなたにすべての富を授けることでしょう。

### 学生の皆さん、少年少女の皆さん！

あなたがたも、やがては父となり母となるでしょう。現在、皆さんが両親を愛し敬ってこそ、皆さんも自分の子どもたちから愛し敬われるのです。皆さんは、自分の行為の反応、反響、反映に直面することになるのです。両親を敬うなら、将来皆さんには豊かな報酬がもたらされることでしょう。

今日、私たちは「イーシュワランマの日」を祝っています。皆さんに、イーシュワランマが子どもたちに注いでいた深い慈悲と愛を物語る出来事をお話ししましょう。当時、さまざまな州や国から訪れた学生たちが夏期講習に参加していました。講習を統率していたゴーカクは、厳格な人物でした。彼は、素晴らしい性質と犠牲の精神の持ち主でした。また、偉大な学者でもありました。彼は、模範的なやり方で講習を統括していました。

ある日、学生たちは食堂で昼食をとっていました。少年の中の一人が立ち上がり、他の学生たちが食事を終える前に外に出て行きました。それを窓越しに見ていたゴーカクは、少年を呼んで、彼の規律を欠いた行動をたしなめました。「仲間の学生たちが食事をしているときは、たとえ君が自分の食事を終えたとしても、途中で立ち上がるべきではない。それは、結果的に仲間への無礼となるのだよ」。そう言うと、ゴーカクは、彼に講習を受けてはならないと告げました。少年は涙を流しましたが、ゴーカクの決意は変わりませんでした。少年は、イーシュワランマの部屋を訪ね、彼女の足にひれ伏して泣き出しました。彼は、ゴーカクから厳しく罰せられたことをイーシュワランマに告げました。そして、自分を助けてほしい、と彼女に嘆願しました。イーシュワランマは少年を慰めてから帰りました。

彼女は、ゴーカクがいつも通る階段のところに腰掛けていました。しばらくすると、彼が姿を現わしました。彼女がゴーカクに挨拶をすると、彼も最高の敬意をこめて彼女に挨拶を返しました。すると、イーシュワランマはこう言いました。「私があなたに挨拶をすれば、あなたも挨拶を返してください。同じように、もしあなたが他の人を罰すれば、あなたもまた罰されることになるでしょう。あの少年は、自分の無知から過ちを犯しました。どうか彼を許し、講習に参加させてやってください」。ゴーカクはこう答えました。「母上さま、もし私が彼を許せば、他の生徒たちにとって悪い前例をつくってしまうことになるでしょう。ともあれ、私は、ただあなたのために、彼のことを許します」。このようにして、イーシュワランマは、他者を助け、癒し、慰めるために心を配ったものでした。

あなたは、自らの行為の結果に直面することになるのです。もしも他者に荒々しく話しかけるなら、それは反響としてあなたへと返ってくるでしょう。もしも他者を打ったなら、それは反映としてあなたへと返ってくるでしょう。それゆえ、他者を傷付けてはなりません。善いことをして、善い人間となり、善いものを見て、善いことを話さない。そのとき、あなたは豊かな報酬に恵まれることでしょう。母イーシュワランマは、正式な教育はいつさい受けていませんでしたが、模範的な態度でふるまいました。彼女は深遠なる英知をもつ者の一人でした。イーシュワラ



2003年5月6日

イーシュワランマ デーの御講話

ンマが与えた教えは、ゴーカクの心の中に刻みこまれました。のちに、彼が副学長としてプッタパーティに来たとき、彼はイーシュワランマの英知の言葉を思い出したものでした。彼は、毎日彼女のことを思い浮かべました。彼はこのように言っていました。「私はとても頻繁にイーシュワランマ様の夢を見るのです。私は彼女のアドバイスに絶対的に従っています」。

私たちは、他者を批判するべきではありません。他者を傷付けてもならず、愚弄<sup>ぐろう</sup>すべきでもありません。私たちは、すべてを愛するべきです。これが、母イーシュワランマがすべての人に教えたことなのです。真摯に自らの義務を果たしなさい。そうすれば、あなたは確実に人生において進歩することでしょう。年長者の神聖な教えには、それが誰であろうとも従いなさい。人々は、教えのそれぞれを、ラーマによるもの、あるいはクリシュナや誰それによるもの、などのように規定します。その教えがラーマのものであろうとクリシュナのものであろうと、関係ないのです。導師たちが、何の教えを、なぜ、いつ、どこで、そしてどのような状況のもとで与えたのかを尋ねなさい。あなたは、それらの教えが与えられた背景を覚えていて、状況に応じた行動をとるべきです。年長者や聖者たちの命ずることに従うとき、あなたは確実に人生において高い位を獲得するでしょう。

母親の言葉に関心を払わない学生がたくさんいます。それは重大な誤りです。母は、子どもの安寧を願い、心の底から語りかけているのです。皆さんは、母の気持ちを理解し、その言葉に然るべき敬意を払わなければなりません。

### 愛の化身である皆さん！ 少年少女の皆さん！

両親の命令に従いなさい。皆さんは、あらゆる種類の教育と力を必ず授けられることでしょう。それらを得るために、いかなる特別な努力をもする必要はありません。誠実にあなたの義務を果たしなさい。両親の言葉を決して軽んじないようにしなさい。愛をもって両親の言葉に従い、あなたの人生を神聖なものとしなさい。皆さんが両親に幸福を与え、それによってあなたがたの子どもたちに理想を示すようになることを願いつつ、私は皆さんを祝福してこの講話を終えることとします。

(バガヴァンは、「サッティアム グニャーナム アナンタム ブランマー・・・」のバジャンをもって御講話を終えられました)

翻訳・監修：サティア サイ出版協会

出典：<http://www.sssct.org/Discourses/2003/easwaramma.htm>

©Sathya Sai Publication 2003 ©Sathya Sai Organization Japan 2003